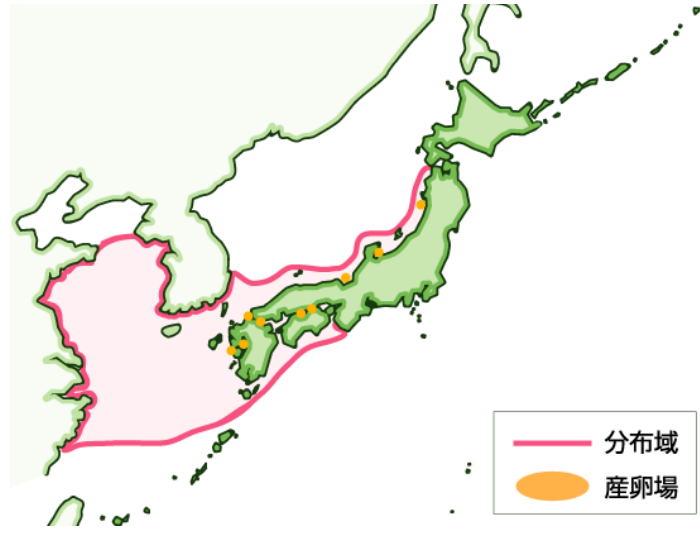
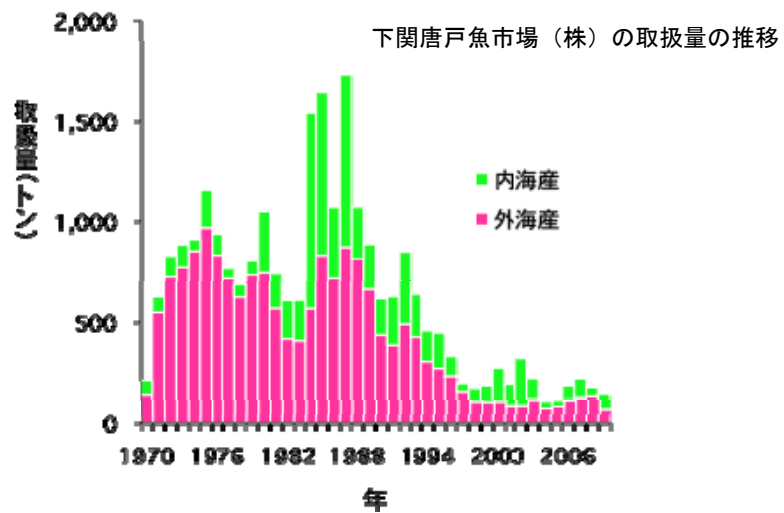


平成22年度
トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海
系群の資源評価



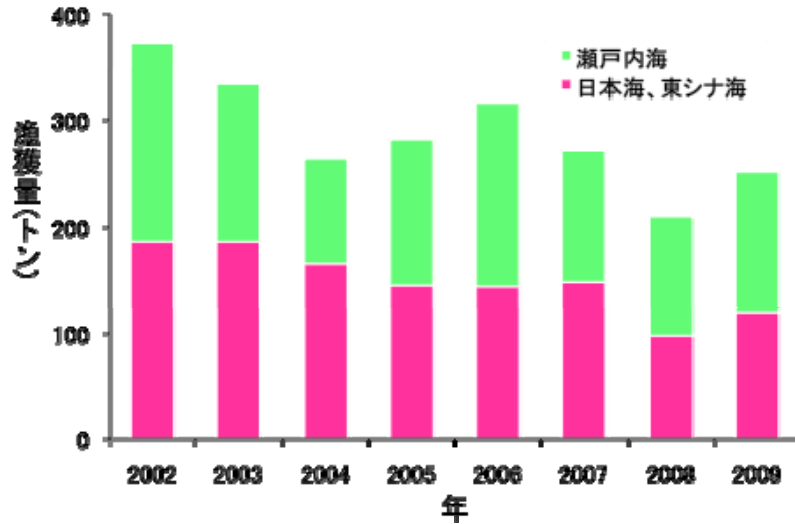
長期資源量指標の推移

資源量は1990年代に急激に減少し、その後低位で推移していると推定される。



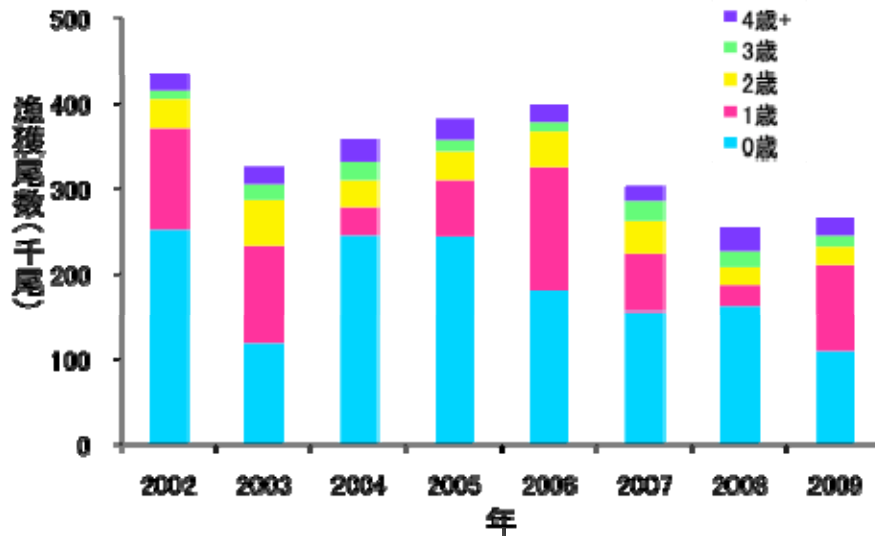
漁獲量の推移

2009年漁期は251トン（瀬戸内海：131トン）。



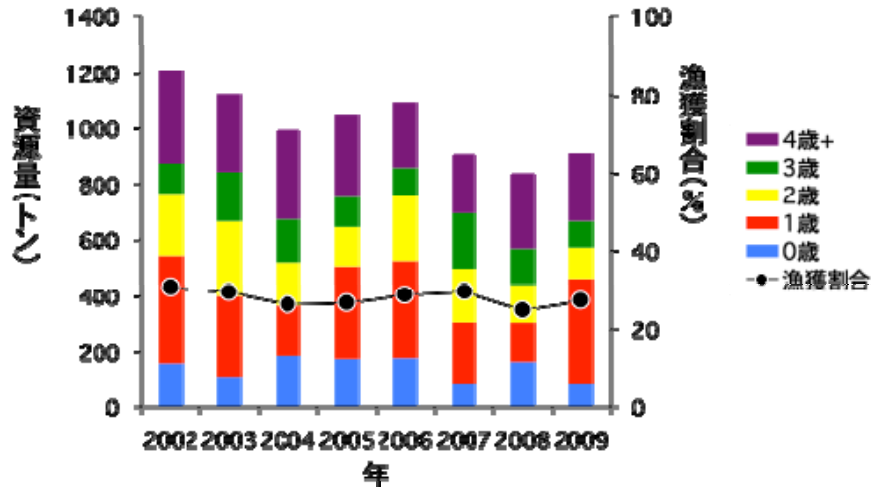
年齢別漁獲尾数の推移

0歳と1歳が漁獲尾数の約8割を占める。



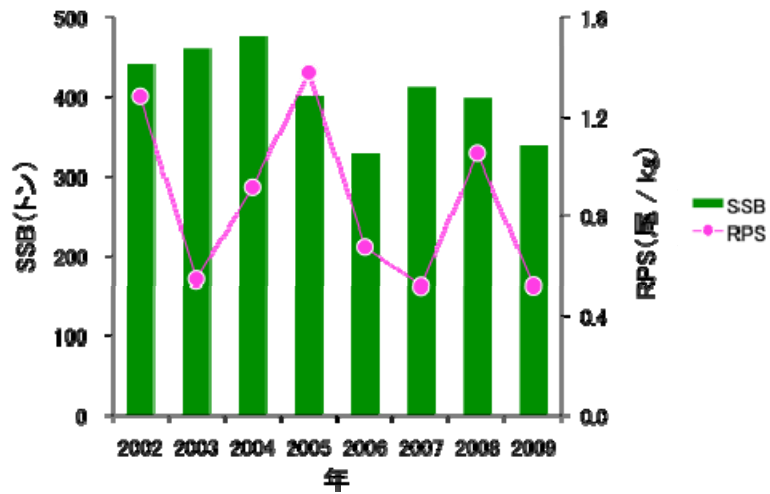
資源量の推移

資源動向は減少で、2009年の資源量は911トンと推定された。



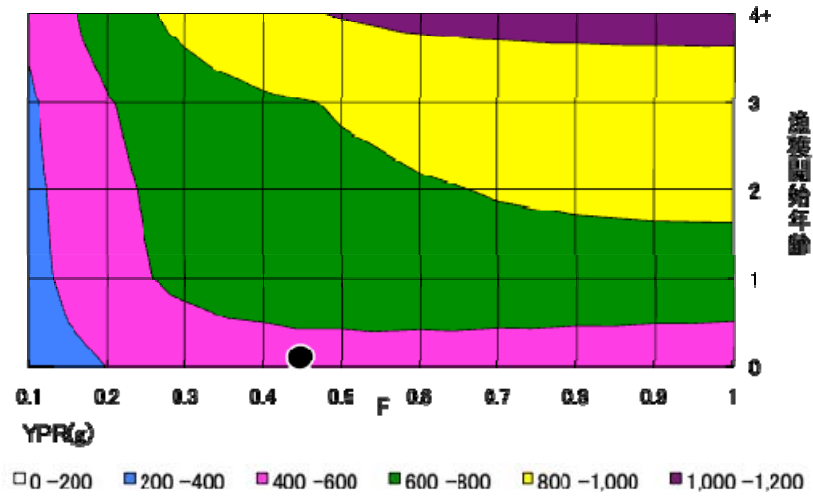
SSBとRPSの推移

SSBおよびRPSがともに減少傾向であることが資源の減少要因の一つと考えられる。



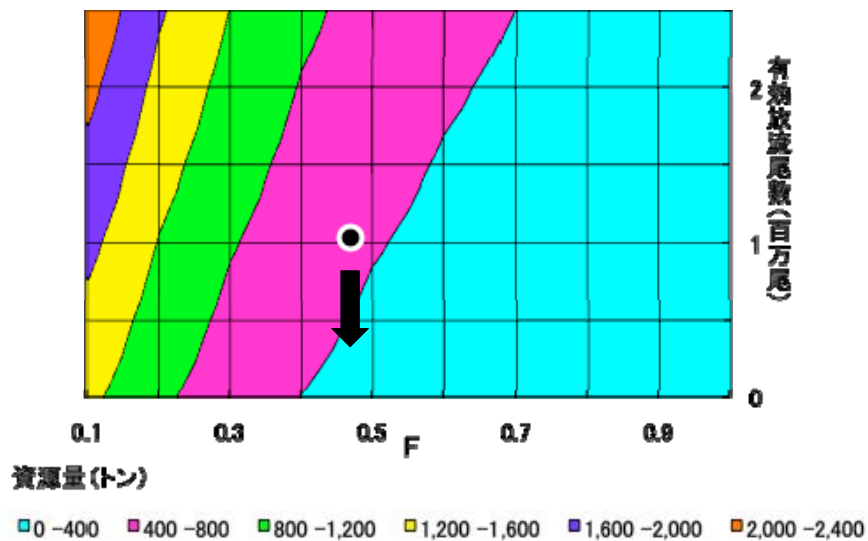
等YPR線図

成長乱獲であり、0歳から漁獲開始する現状のままでは、漁獲量向上は期待できない。



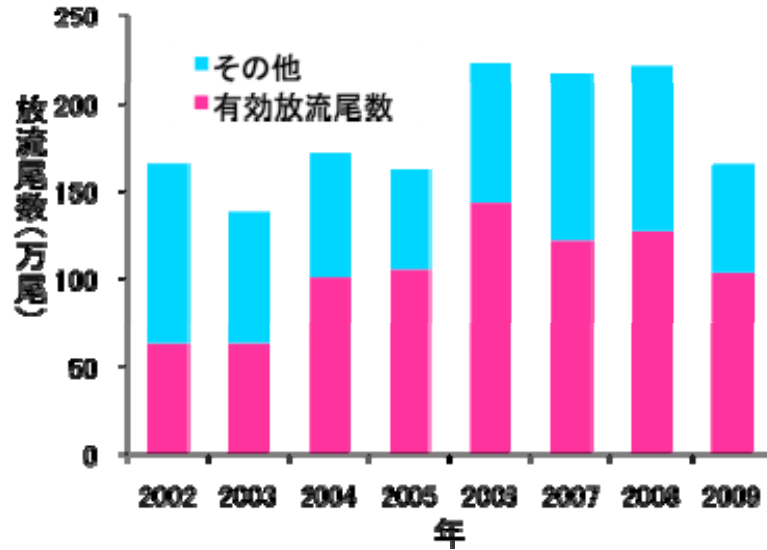
2015年の等資源量線図

種苗放流は資源を下支えしている。



放流尾数の推移

天然0歳の成育域に放流されているのは、約6割。



2011年ABC

	2011年ABC	資源管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	155トン	$0.70F_{current}$	0.30	22%
ABCtarget	128トン	$0.8 \cdot 0.70F_{current}$	0.24	19%

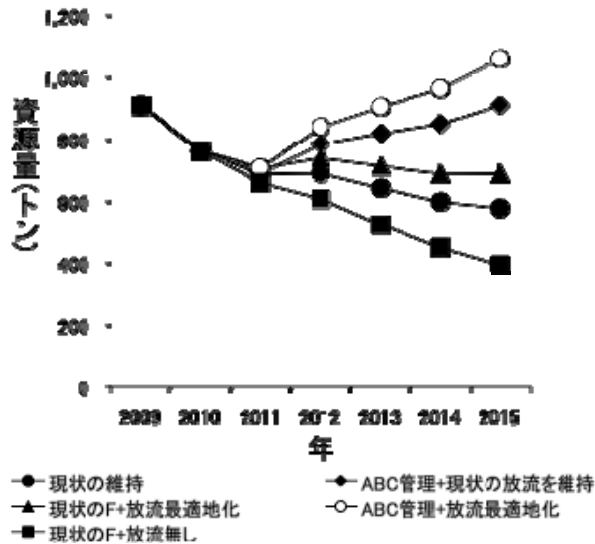
F値は全年齢の平均値

ABC算定のための基本規則1-3)-(3)

- 2006～2009年の平均RPSが継続
- 平均有効放流尾数（103万尾）が継続
- ◆ 2015年にSSBをRPS_{high}であった2005年の401トンに回復することを目標とした。

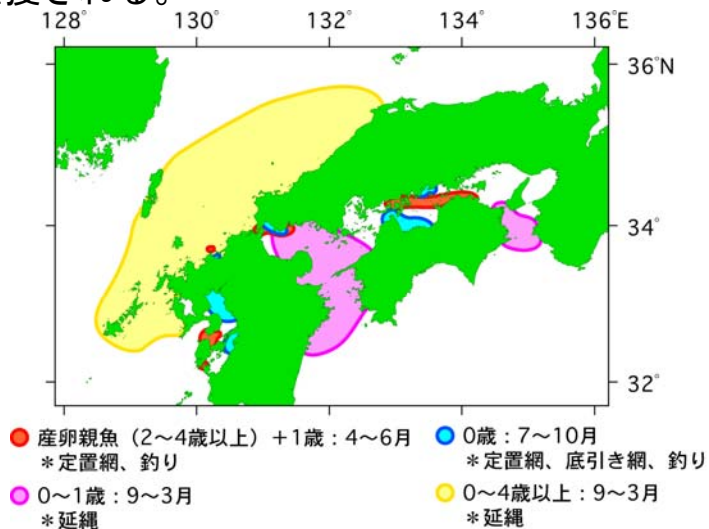
将来予測とABC管理以外の提言

放流場所の成育場への転換と漁獲圧の削減が重要。



年齢別漁獲海域

瀬戸内海では、0~1歳が主に漁獲され、2歳以上は産卵期のみ漁獲される。



瀬戸内海のトラフグ資源の回復に必要な方策

瀬戸内海西部、瀬戸内海中央部の成育場において、

- 0歳の保護。
- 種苗放流。

瀬戸内海西部、瀬戸内海中央部の産卵海域において、

- 産卵親魚の保護。

瀬戸内海西部、水道域において、

- ◆0~1歳の漁獲規制。